

夏の御文

ゲノオフミ

法要

日時

6月22日(日)

午後1時30分

～3時30分

節談説法

「大事をいただく」

～親鸞聖人御一代記～

説教使

祖父江佳乃師(有隣寺)

ご講師からのメッセージ

浄土真宗のお寺には、戦前、「高座」と呼ばれる、そこに座ると御堂の聴衆全てを見渡せる説教台がありました。説教使はそこに座り、鍛えられた声に選りすぐりの言葉をのせ、扇一本の素話で、阿弥陀様の本願を説きました。阿弥陀様のお使いの役目を担っているから「師」と言う漢字は用いずに「使」と描きます。説教は節(言葉の長さ、速さ、間)を持って語られ、聴衆の感覚、感情に訴える詩的で劇的なものでした。ここから落語、講談、浪曲など話芸と呼ばれるものが生まれました。「話がウケる」という表現は、お聴聞して、いつの間にか口から念仏がこぼれ落ちる「受け念仏」から来ています。説教は阿弥陀様のお取り次ぎです。話芸の源流ではありますが、芸能ではありません。ですから、拍手ではなく、念仏をいただきます。私の祖父、祖父江省念を永六輔さんや小沢昭一さんは「最高にして最後の説教使」と呼んでくれました。ですが私の役目は祖父を最後の説教使にしないことです。いただいたお役目を精一杯。

うれしく たのしく おごそかに